

# 2019 年度 若手・女性研究者奨励金 レポート

研究課題	幼児期における食文化伝承を目指した知育玩具の提案
キーワード	①幼児、②食文化、③知育玩具

## 研究者の所属・氏名等

フリガナ 氏名	ヤマシタ シンペイ 山下 晋平	所属等	宇部フロンティア大学短期大学部 講師
プロフィール	宇部フロンティア大学短期大学部 食物栄養学科 講師として、栄養士養成に尽力している。これまで「幼児向けの教材開発」や「郷土料理の伝承」を研究テーマとして活動してきた。研究の特色としては、単なる知識伝達ではなく、対象者の自発的行動を引き出すことを目的にした教材及びプログラムの開発を行っている。		

## 1. 研究の概要

本研究は、筆者の先行研究で保育所・幼稚園給食において提供回数が最も多かった山口県の郷土料理である「けんちょう」を題材とした知育玩具の開発を行い、それらを幼稚園教諭と保育士と評価・実施をしてもらうことで知育玩具(絵本及び木製玩具)の有用性の検証を行った。

## 2. 研究の動機、目的

第2次食育推進基本計画に続き、第3次食育推進基本計画でも、重点課題の1つとして「食文化」が上げられており、食文化伝承への取り組みの推進が急務といえる。食文化の伝承だけでなく、「保育所における食育に関する指針」には幼児期から郷土料理に触れる必要性が具体的に記載されており、幼児期に郷土料理に触れる機会を増やすことが重要である。

現在、幼児が郷土料理に触れる機会のほとんどは、幼稚園・保育園における給食と考えられる。しかし、筆者の先行研究で、保育所・幼稚園給食における郷土料理の提供率がそれぞれ0.21%と0.41%と低く、乳幼児が郷土料理に触れる機会が少ないことが明らかとなった上に「食育で指導しにくい分野」として「食文化」の分野が保育士で59.1%、幼稚園教諭で71.4%を占めていたため、いかに幼児期に郷土料理を切り口にした食育を実践することが難しいかと考えられる。そこで、郷土料理の伝承教育を効率的・効果的に実施するために、保育者が使いやすい教材の開発を行うと同時に、幼児が自発的に学ぶ知育玩具を提案することとした。

## 3. 研究の結果

### 1) 絵本の作成及び評価

作成した絵本は、けんちょうが山口県の郷土料理であることを学べるだけでなく、調理工程なども学べる内容にした。絵本を評価した幼稚園教諭及び保育士からは、「文字の配置など」について指摘があったものの「子どもが郷土料理について学ぶきっかけになる」といった肯定的な評価が得られた。



絵本(全体)  
図1-1

内容(一部抜粋)  
図1-2

図1 作成した絵本(一部抜粋)

## 2) 木製玩具の作成及び評価

木製玩具は、絵本の内容に沿って遊ぶことができ、包丁の使い方、野菜の特徴、野菜の切り方(いちょう切り等)や料理の手順についても楽しみながら学べるように作成を行った(図2)。作成した玩具を、本学生及び幼稚園教諭に評価をしてもらったところ、「少し難しいかもしれない」などの意見はあがったものの「絵本を見ながら、真似て、ままごとでけんちょうを作る過程が経験できるので楽しい」「細かいところまで再現されていてとても面白かった」「子どもも料理を作ることに、興味・関心を持ってそうです」などの評価も得られた。また「幼児に使わせてみたいか」の問いでは、多くの評価者から「とてもそう思う」と評価が得られた。しかし、「玩具使用時の安全性」等についての意見が得られたことから、幼児が自発的に遊ぶか否かまでの検証には至らなかった。



木製玩具(全体)  
図2-1



人参(いちょう切り)  
図2-2

図2 開発した木製玩具(一部抜粋)

## 4. 研究者としてのこれからの展望

本研究の成果については、日本食育学会・日本調理科学会への論文投稿・学会発表などを通して、広く普及させることに取り組むたいと考えている。今後は、「玩具のサイズ」や「切り口の素材」等を調整し、幼児が自発的に使用したかどうかの調査を行いたい。また、保育士や幼稚園教諭からの意見にもあったが「紙芝居」等の大人数に対応できるような教材へ展開し幼児が郷土料理などを学ぶ機会を増やしていきたい。

これからは、幼稚園教諭や保育士、保護者などからの一方的な教育ではなく幼児自身が考え、身に付け、行動できるように、行動科学を基にした教材の提案をしていきたいと思っている。

## 5. 社会に対するメッセージ

本奨励金によって得られた成果は、日本における1地域の1料理であるが、作成した玩具(絵本及び木製玩具)は、保育者から項目別評価において高い評価が得られただけでなく、絵本については、幼児からも「面白かった」といった評価が得られた。この成果を学会発表・論文投稿などで普及させ、各地域における知育玩具等の教材を開発することで、幼稚園及び保育所における食育を今以上推進することができれば、幼児の郷土料理及び郷土への興味が向上すると考えている。それだけでなく、食や料理への関心が高まることにつながり、幼児の健全な食習慣の形成が期待できると考えている。

本奨励金に採択されたことにより、幼児が食や食文化に対して興味・関心をもてる知育玩具の創造・提案に挑戦し、木製玩具を通じた教育に可能性を見出すことができました。作成した玩具の評価に協力をいただいた幼稚園・保育所をはじめ、本研究にご協力いただいたみなさまに改めて感謝申し上げます。